



この「和宮様御参向御用御役人附」は、和宮の南向に際し誠養堂が印刷したもので、5枚1組、行列図と供の公家などの人名が刷られています。大きさは、縦11.5cm、横29.5cmです。

皇女和宮は14代將軍徳川家茂へ輿入れのため、文久元年（1861）10月20日京都を出発しました。その行列は中山道はじまって以来といわれ、京都方1万人、江戸方1万5000人、京都からの通し人足4000人、総勢3万人の大行列でした。上野国内に入ったのは、11月9日で、坂本宿に宿泊、翌10日は松井田で昼休み、安中宿で小休止のち板鼻宿で宿泊しています。11日は高崎宿で昼休み、倉賀野宿で小休止をし本庄宿で宿泊しました。江戸に到着したのは11月15日、婚儀は翌年2月11日に行われました。一行は大人数でしたから、坂本宿本陣では、前後10日間にわたって宿泊しています。また、上野国内では、沼田藩が追分～坂本宿、安中藩が坂本～安中宿、高崎藩が安中～本庄宿まで警備をしました。安中藩は、碓氷峠から杉並木まで警備を担当していましたが、沿道23ヶ所に藩士87人、同心・足軽など160人、鉄砲80挺を配備しています。行列には近隣の村々から人馬・人足が助郷人足として調達されました。

〈参考資料〉『群馬県史』通史編5 715～717頁